



# 私のひとりごと

## 「長年の胸のつかえ」

1月のことである。日ごろお世話になっている方や業者の職人さん達30名ほどでバス旅行に出かけた。ご存知のように、軽井沢バス横転事故があった後だけに、運転手の技量などが気になるところであったが、バス会社も「当社で一番腕の良い運転手を回しますから」と、お願いもしないのに気の使いようであった。また、私が指定した道路は混雑を避けるため国道を離れ、乗用車どうしがすれ違うのも気を遣う道が含まれていた。なので、ことさら不安であったのだが、なんなく通り抜け、さすがプロと大いに感心させられた。

旅行行程の中に吉本新喜劇観覧があった。難波グランド花月の近くに大型バスの駐車所が無く、道頓堀川に掛かる橋の上が乗降所になっていた。徒歩にして15分ぐらいの道中を、30名ほどでソロソロと歩く。「まるで、中国人の爆買の団体みたいやな〜」と誰かが言った。その言葉に、先頭にいた私は思わず振り返ると、いつも見慣れた職人さんではあるが、個性豊かな顔（失礼）で、中国人と思えばそう見えてしまう。つられて「手ぶらでは格好がつかんで〜炊飯器買って帰るか〜」。となる。最近、旅行に行った人の話を聞いても中国人が多いというが、確かにすれ違う人の多くは日本語を話していなかった。もはや、日本の観光産業は中国人なしでは成り立たないのではなからうか…。



【お約束のギャグも安定の新喜劇でした(笑)】

さて話を吉本新喜劇に戻すが、私が新喜劇を生で見るのはこれが2回目。テレビでお笑い番組になると、チャンネルを変える私であるが、テレビで見るのと生で見るのでは大違い。瞬く間に、吉本ワールドに引き込まれてしまう。若手は若手なりに面白く、売れっ子であれば、最初は、当日はテレビ撮影のない日なのでテンション低めかな？と思ったのであるが、知らず知らず笑いの世界に引きずり込まれ、最後には、大いに芸の醍醐味を味あわせてくれた。私的に嬉しかったのは、「西川のりお・上方よしお」に会えた事。若い人は、誰？と思われるだろうが、私の世代では一世を風靡した人気者である。正直「へえ〜まだやっているんだあ〜・・・」と驚きもした。頭こそ白くなったが、その芸風は変わらず、オチの言葉が解っていても文句無く笑ってしまう。お笑いの職人芸としか言い様がなく、その姿は生きていくうえで勇氣さえ与えられ、私にエールを送ってくれている様にも感じた。まさに「プロ」である。

NHKの番組で「プロフェッショナル〜仕事の流儀〜」という番組がある。その番組の最後に「あなたにとってプロフェッショナルとは？」と問いかけがあるのだが、私は今まで、自分自身に問いかけた場合、明確な答えが出せなかった。それが悔しくて、番組の最後になるとチャンネルを変える自分が居た。が、今回の、「西川のりお・上方よしお」コンビに出会い、おぼろげながら答えが出ようとしている。プロフェッショナルとは…1つの仕事なり芸なりを追求し、それがいつの時代にも受け入れられてこそプロフェッショナルと言えるのではなからうか…。ハア〜…これで胸のつかえが一つ取れたような気分である。「何を大げさな事を！」と思われるかもしれないが、私にとって長年のテーマの一つであったのだ。

それでは「あなたにとってプロフェッショナルとは？」

ではまた来月もお会いしましょう。  
今月も最後まで読んでいただき…、

あーがしう  
ございました!!

